

自分の生命を含め、森羅万象・草木虫魚まで精靈が宿り、大きな樹木に注連縄を張つて心を充足させてきた日本人のこころを、いま一度みつめていきましょう。

「あれか・これか」と主体的な基準によつて選別する考えは、西洋的(キリスト教的)な考え方ですが、日本の戦後の学校教育も、神も仏も信じる生き方を「無分別」ととらえ、ともすれば日本伝統宗教を「古い考え方」と決めつけ、殊更に経済発展を優先し、精神的な拠り所としての宗教をとり上げることはしてきました。ですから、自分の中の宗教を自覚することなく過ごしてきましたのです。これは戦前戦後の多くの知識人が「自分は無宗教」と標榜していた頃を思い起させば明らかです。

時代は人工知能(AI)によつて更に複雑になつていくでしょう。六〇兆あるといわれる人間の細胞の一つを取り出して、解明することは出来たとしても、決してその一つを人間の手で新しく作り出すことは不可能なのです。

これは日本人がとりわけ信仰心が篤いというよりも、無意識に宗教的な行為や願いを繰り返しているように思います。その証拠に、文化庁の『宗教年鑑』の各宗教団体から報告された信者数の合計は、人口の倍以上で、二億人を突破しています。つまりそれだけ多岐に亘つて、神社やお寺に係わつてゐる人が多いということでしょう。

こうした重層信仰、あるいは諸宗混淆(シンクレティズム)は、明治以前では当然見受けられることで、生活の中での「神仏習合」は、お祭りの形態を見れば明らかであります。それが明治の「神仏分離」「廃仏毀釈」の施策で大きく変わり、西洋思想やキリスト教の宣布等でさらに重層さが増して、多岐に亘るようになりましたが、人々の信仰の違いによる軋轢はそれ程ではありませんでした。

このことは、今まで地域に於ける宗教単位は家であり、神社の維持も「氏子」である家単位であり、またお寺も、個人としてではなく「檀家」として所属し、「講」も各家より誰かが参加していく、いつも地域とつながりがあつたのです。

こうした心の底辺には、自然の中に神仏が宿つてゐるという考え方があります。これは農業や漁業を生計とする民族としては自然といえましょう。

「あれか・これか」と主体的な基準によつて選別する考えは、西洋的(キリスト教的)な考え方ですが、日本の戦後の学校教育も、神も仏も信じる生き方を「無分別」ととらえ、ともすれば日本伝統宗教を「古い考え方」と決めつけ、殊更に経済発展を優先し、精神的な拠り所としての宗教をとり上げることはしてきました。ですから、自分の中の宗教を自覚することなく過ごしてきましたのです。これは戦前戦後の多くの知識人が「自分は無宗教」と標榜していた頃を思い起させば明らかです。

時代は人工知能(AI)によつて更に複雑になつていくでしょう。六〇兆あるといわれる人間の細胞の一つを取り出して、解明することは出来たとしても、決してその一つを人間の手で新しく作り出すことは不可能なのです。

自分の生命を含め、森羅万象・草木虫魚まで精靈が宿り、大きな樹木に注連縄を張つて心を充足させてきた日本人のこころを、いま一度みつめていきましょう。



一隅を照らそう
2月号

289号
毎月28日発行

きんかん(金柑)
折りふしのはな

自覚する信仰

住職 中島 有淳

日本人の宗教意識はよく言われるよう、毎日の生活に仏教・神道・キリスト教などの習俗を上手に取り入れてきました。

それは『歳時記』を見れば一目瞭然で、一年中何かしらの行事やお祭りが各地で催され、四季折々に草木にも彩られた世界です。内容は素朴なものから、先祖への感謝・子供の成長の願いや、五穀豊穣といったものまで種々です。

これは日本人がとりわけ信仰心が篤いというよりも、無意識に宗教的な行為や願いを繰り返しているように思います。

その証拠に、文化庁の『宗教年鑑』の各宗教団体から報告された信者数の合計は、人口の倍以上で、二億人を突破しています。つまりそれだけ多岐に亘つて、神社やお寺に係わつてゐる人が多いということでしょう。

こうした重層信仰、あるいは諸宗混淆(シンクレティズム)は、明治以前では当然見受けられることで、生活の中での「神仏習合」は、お祭りの形態を見れば明らかであります。

それが明治の「神仏分離」「廃仏毀釈」の施策で大きく変わり、西洋思想やキリスト教の宣布等でさらに重層さが増して、多岐に亘るようになりましたが、人々の信仰の違いによる軋轢はそれ程ではありませんでした。

このことは、今まで地域に於ける宗教単位は家であり、神社の維持も「氏子」である家単位であり、またお寺も、個人としてではなく「檀家」として所属し、「講」も各家より誰かが参加していく、いつも地域とつながりがあつたのです。

こうした心の底辺には、自然の中に神仏が宿つてゐるという考え方があります。これは農業や漁業を生計とする民族としては自然といえましょう。

「あれか・これか」と主体的な基準によつて選別する考えは、西洋的(キリスト教的)な考え方ですが、日本の戦後の学校教育も、神も仏も信じる生き方を「無分別」ととらえ、ともすれば日本伝統宗教を「古い考え方」と決めつけ、殊更に経済発展を優先し、精神的な拠り所としての宗教をとり上げることはしてきました。ですから、自分の中の宗教を自覚することなく過ごしてきましたのです。これは戦前戦後の多くの知識人が「自分は無宗教」と標榜していた頃を思い起させば明らかです。

時代は人工知能(AI)によつて更に複雑になつていくでしょう。六〇兆あるといわれる人間の細胞の一つを取り出して、解明することは出来たとしても、決してその一つを人間の手で新しく作り出すことは不可能なのです。

自分の生命を含め、森羅万象・草木虫魚まで精靈が宿り、大きな樹木に注連縄を張つて心を充足させてきた日本人のこころを、いま一度みつめていきましょう。

小つぶでキュートな金柑

大雪の翌日
太陽の光を浴びて
金色に輝いていました

金柑は寄り添つて
きのうの雪はすぐかつたね

本当に冷たかつたわね
そんなおはなしでも
しているのでしょうか (遊)

智泉院法要日 (於・日本橋茅場町)

◎毎月十八日 午後二時
薬師如来祈祷会 観音經読誦

◎毎月二十八日 午後二時
不動明王護摩供修行

* 每朝 六時より公開で朝のお勤めをしております

ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

節 分 会 二月三日午後二時

◎息災護摩札 (志納金一体 五千円)

◎厄除護摩札 (志納金一体 五千円)

◇自動車交通安全お守り (志納金一体 三千円)

○盜難除お札 ○火防お札 (各一体 千円)

◎毎月八日 午後二時
智泉院法要日 (於・日本橋茅場町)

◎毎月二十八日 午後二時
觀音經讀誦法要 (於・神木觀音堂)

◎毎月二十八日 午後二時

平成30年 厄年表 (数え年)	
男	女
25歳 平成6年生まれ	19歳 平成12年生まれ
41歳(前厄) 昭和53年生まれ	32歳(前厄) 昭和62年生まれ
42歳(本厄) 昭和52年生まれ	33歳(本厄) 昭和61年生まれ
43歳(後厄) 昭和51年生まれ	34歳(後厄) 昭和60年生まれ
61歳 昭和33年生まれ	61歳 昭和33年生まれ

あとがき

○今年の「比叡山から発信する言葉」は、「憶和敬」。「心を穩やかに、つつしみ深く保ち相手を敬う」と辞書にあります。今世に心に留めたい言葉です。

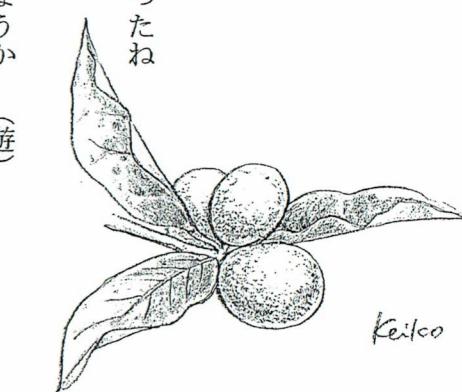
○一月二十六日は全国の「文化財防火デー」。當山でも消防車五台による訓練が実施されました。通報から一斉放水までの緊迫した時間に、文化財の維持管理の責任を感じました。

○大相撲初場所を観戦。白鵬と稀勢の里の休場は寂しくもありましたが、場内は底支えする若い力士とファンで溢れていきました。

○一月二十二日の大雪は予報が見事に的中。翌朝の雪景色と朝からの混乱のニュースの中、朝刊がいつもの時間に配達。てっきり遅れると思っていただけにその「仕事」には大いに感心しました。

○インターネットでも當山の様子をお伝えできるように、ツイッターとインスタグラムを開設しました。ご感想お寄せ下さい。

○節分を過ぎると立春。境内の紅梅が咲き始めました。受験シートですが、余寒厳しき折お大事にして頑張つて下さい。合掌



Keiko